

川崎重工グループと中国パートナーとの価値共創

2010年の日本と中国の貿易は、輸出・輸入とも過去最高を更新し、総額が3,000億ドルを突破しました。中国は日本の経済成長において重要なパートナーと言えます。川崎重工は、1972年の日中国交回復以前から船舶、車両などで中国との交流があり、1979年には日本の重工業会社としては初めて中国に事務所を設立しました。以降、中国の幅広い業界のお客様への製品の販売・アフターサービスの実施、有力現地メーカーからの部品調達などを行い、現在では、多くの製造・販売・エンジニアリング等の現地拠点を有するに至っています。本特集では、中国企業との良好なパートナーシップのもと、「価値の共創」に向かって運営している合併事業のなかのいくつかについて紹介します。



Q ACK・CKM・CKEではセメント排熱発電用機器や、その他の省エネルギー・環境対策設備を手がけられています。中国では、これらの製品・技術をとりまく環境はどのような状況にありますか？

A: 中国のセメント生産量は約18億トンで、世界の総生産量のおよそ半分です。一方、セメント製造には膨大なエネルギーが必要であるため、石炭の消費とそれに伴う環境負荷が中国にとっての社会課題です。更に、年々増える都市ごみの処理の問題があります。まだ埋設処理がほとんどですが、埋立て場所の減少、および有害物質による土壌や水質汚染などへの対応が急務です。

Q ACK・CKM・CKEの技術や製品は、それらの問題にどのような解決策となるのでしょうか？

A: まず、我々はセメント製造設備の省エネへのソリューションを持っています。堅型ミル・NSPIに代表されるセメント製造に関わる各機器について、より効率的な機器を提供することが出来ます。また、セメントの焼成過程で大量の熱が排出されますが、これを利用して発電する設備を提供し大きな成果を上げています。ごみ処理とセメント製造を組み合わせたCKKシステムでは、ごみをガス化し、ガス部分と固形部分に分離、ガスはセメント製造のための燃料に、固形部分は処理を行い、未燃部分はセメントの原料にします。これにより、ごみを有効利用できるのはもちろん、埋設処理に比べて温暖化ガスを5割から6割削減することができます。中国はもちろん、世界的な需要に対応した製品であると自負しております。

Q このような価値を共に産み出すパートナーとしての川崎重工に対するご意見を聞かせてください。

A: セメントメーカーとしての海螺集団としては、川崎重工という機械メーカーとの合併により、設備調達を内製化することでコストダウンできるとともに、機械設備を製品メニューに持つことが出来ました。また、川崎重工の省エネ・環境保護分野での技術の蓄積・海外での業務経験・エンジニアリング会社としての管理手法と、海螺集団の中国セメント業界における信頼性、現地調達ノウハウ、操業ノウハウ等を生かし、両者のシナジー効果により、顧客への優れたソリューションの提供が可能となると考えています。

Q (所在地)安徽省でも大きな日中合併企業に発展されましたが、地域への貢献についてお聞かせ下さい。

A: 安徽省は中国政府が重点的にサポートする中部地域の中、もっとも経済発展の勢いがある省の一つです。このため、人財育成の促進に力を入れています。ACKとCKMIは2008年度以降毎年100万元を安徽省蕪湖市に奨学金として寄付しています。優れた人財が育ち、我々の次の世代として、国を支えるセメント、エネルギー、環境の分野でも活躍してくれることを願っています。

ACK・CKM・CKE

名称: 安徽海螺川崎工程有限公司 (略称 ACK)
 省エネルギー・環境対策設備エンジニアリング
 安徽海螺川崎節能設備製造有限公司 (略称 CKM)
 省エネルギー・環境対策設備の開発、製造
 安徽海螺川崎裝備製造有限公司 (略称 CKE)
 セメント設備の設計および製作・販売

所在地 (三社共通): 安徽省蕪湖市

投資比率 (ACK・CKM): 川崎重工50%、安徽海螺創業投資50%
 (CKE): 川崎重工50%、安徽海螺セメント50%

川崎重工グループ・中国拠点マップ



Q KCPMは昨年操業開始し、現在は建設機械用の油圧ポンプを生産されています。中国での建設機械、油圧機器についての状況を教えてください。

A: 中国は約13億の人口、960万平方キロの国土があります。経済成長が著しい新興国であるとは言えまだ立ち遅れている地域も多く、これからも都市建設・農村開発、道路、鉄道、港湾などの整備を大規模に進めていかなければなりません。そのためには膨大な量の建設機械が必要です。建設機械産業は中国政府が最も重要視する分野のひとつで、第十一次五年計画の期間中に大きな発展を遂げました。しかしながら、その重要部品である油圧ポンプ、モーター、バルブの製造基盤はまだ不十分だと言わざるを得ません。輸入に頼る部分が大きいのですが、「叫不應」という中国語で表されるとおり、必要があっても供給が受けられないこともある不安定な状況です。

Q KCPMがその中で果たすことを期待されている役割はどのようなものですか？

A: KCPMは、温家宝首相の「部品製造の大発展」という号令のもと、国外の技術や管理手法を導入し、合併企業による国産化を推進して「叫不應」の課題を解決すべしとして設立されました。実は油圧部品の分野における外国企業との合併は、当社が最初であると聞いております。まだ昨年立ち上がったばかりですが、すでに多くの建設機械メーカーから支持をいただき急速に製造実績を伸ばしています。(現在、9社の中国地場建設機械メーカーに対し計26種類の油圧ポンプを供給し、今後更にユーザー・品種共、拡大する見込みであります。2010年は5月からの8ヶ月で2659台を販売し、2011年は2万台程度の販売を目標にしています。)今後さらに供給能力を上げて、国産化の実現に向けた貢献をしていくことを期待されていると認識しています。

Q 中国工程機械学会から紹介されたのが川崎重工との協業の始まりと聞きました。その川崎重工とこれまでパートナーとしてやってこられて、印象やご意見はいかがですか？

A: これまでの短期間での成功にはいくつかの要件がありました。ひとつは、中国側親会社であり、私が董事長を務めております春暉集団も40年の歴史をもつ機械メーカーとしての基盤がありますが、川崎重工から、技術面、管理面での十分な人的サポートを頂けたことです。もうひとつは一般に日本企業との合併は良くも悪くも管理の厳しさということが言われるわけですが、当社では中国サイドに總經理を任せてくれたことにより、従業員に落ち着きが生まれ、これによって品質の安定が得られたと思われることです。今後については、川崎重工が中国の建設機械の需要を引続き長期的な視点で捉え、品種の増加など更なるご入力を図ってくださることを希望します。

Q 従業員の福利厚生、働き甲斐はどのように自己評価されているかお聞かせください？

A: 給与は、公正・公平・公開をモットーにし、上昇の激しい中国消費者物価指数に合わせて一年に一度の調整も行っています。更に、従業員が全体にアットホームな雰囲気の中で、会社生活をおくれるよう、食事や慰安などの福利厚生面にも工夫をしています。仕事については、従業員個人が元来持っている技能を発揮できることに加え、新しい技術を習得する機会があることがモチベーションの向上に結びついています。何よりも、急速に伸びていこうとしているハイテク企業で働いているということ自体が一番大きな従業員の喜び・誇りになっていると考えます。

KCPM

名称: 川崎春暉精密機械(浙江)有限公司 (略称KCPM)
 所在地: 浙江省上虞市
 投資比率: 川崎重工54%、浙江春暉集団46%
 経営範囲: 油圧機器の製造販売